

ぎゅうほんじょうてっこうば  
**旧本庄鉄工場**

本庄鉄工場が、現石狩市親船12番地（現在は空地）にあった工場で営業していたのは、大正14（1925）年から昭和50年代までです。

建物が建てられたのは本庄鉄工場となる前の明治30年頃で、木造平屋建、面積54.07坪（178.75m<sup>2</sup>）、鉄工場の奥には住まいが続いていました。

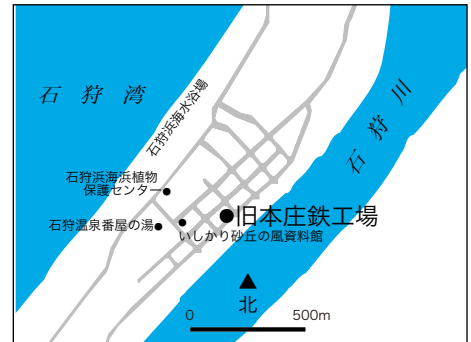
春先は農具を、夏から秋にかけては漁業用具や和船の船釘などを製造していました。鍛冶職人の仕事は、火床の中で材料を熱し、金敷の上で鍛造（※注）作業を繰り返すような作業でした。

昭和59（1984）年に北海道開拓の村に収集され、翌昭和60（1985）年に復元されました。現在も使用した工具などと共に展示されています。

（石井滋朗）

※鍛造作業—高温に熱した鋼を、鋤あるいはハンマーで打ちながら所定の形に成形する作業

（1）北海道開拓の村・展示説明板



北海道開拓の村に移築・復元された旧本庄鉄工場の建物（上の写真3点）